

18春闘の成果と課題を明確にして、不当労働行為を許さずに安全・健康・働きがいとぬくもりのあるJRバス関東を全組合員の手でつくりだそう！

JRバス関東本部の2018春闘はJR総連春闘の一翼を担うべく組合員と家族の総団結で①定期昇給の実施、②一律定額ペア400円、③60歳以上の日給制契約社員B・臨時雇用員の日額220円加算、④時給制契約社員B・臨時雇用員の時給20円加算を回答指定日である3月30日に確認しました。さらに、「昨年引き続き社員間格差を是正する為の新制度社員の定期昇給額改正」「55歳以上の基本給減額制度の見直しの早急な議論」を行うことを議事録確認し、新制度社員の定期昇給額400円加算を確認してきました。現在は組合員の努力で生み出した好業績を背景に「2018年度夏季手当交渉」、そして「55歳以上の基本給減額制度の見直し」に向けて、全組合員と家族の声を背負いながら要求実現に向けた議論を積み重ねています。

JR東労組は昨年結成30年を迎えました。先輩たちが血と汗と涙で乗り越え、職場からの挑戦で築き上げてきた組織が今、最大の危機を迎えています。18春闘をめぐる過程で2月12日に産経新聞「JR東労組スト検討」が報道され、レールの職場ではその直後に会社が「社員の皆さんへ」を掲示し、そして経営幹部の職場訪問による社員への訓示等で脱退者が続出し、組合員の半数以上が脱退する事態になり職場は混乱状態に陥りました。

バス関東の職場では18春闘回答指定日の3月30日から突如として脱退が始まり現在、現場管理者や本社分会組合員を中心に60名以上の組合員が脱退しています。また、本社分会では組合員42名の脱退届けがまとめて東京地本に届く事象も発生しています。脱退理由で共通していることは「JR東労組に加盟していると職責上支障をきたす」「労使共同宣言が破棄されたため」「組合方針に賛同できない為」等の理由が述べられています。職場では現場長から「脱退するならば足並みを揃えて脱退しろ」等の不当労働行為とも取れる言動によって組合員は悩み苦しんでいます。私たちは脱退を余儀なくされた組合員は複雑な心境の中で、苦渋の選択が迫られたと考えています。それはJRバス関東の職場には仲間同士の強い絆で結ばれた独特の職場風土があり、JRバス発足から今日まで、幾多の困難をこの強い仲間意識によって乗り越えてきたことを実感しているからです。

JRバス関東本部は不当労働行為には一切屈せず全国17分会の仲間と共にたたかいます。それは国鉄改革から30年間労使の協力体制によって、今日の安全で安定したJRバス関東をつくりだしてきた紛れもない事実があるからです。組合員の協力や支えがなくては職場の正常な運営はあり得ないことを一番理解しているのは現場管理者や本社分会の皆さんです。さらには本社分会と連携して勝ち取った非現業手当や職務手当等の改善も17分会が一丸となって取り組み大きな成果を上げてきたのです。しかし、このまま脱退が進めば職場は仲間同士の人間関係が破壊され疑心暗鬼の状態に陥り、JRバス関東に最も馴染まない暗く陰湿な職場になってしまいます。今こそ全組合員でこの攻撃の本質を見極め、一時の空気に流されずに職場で議論を深めていこう！

JRバス関東本部は、これから最も重要な局面を迎えます。55歳以上社員の減額制度の見直しと60歳以上の雇用制度や待遇改善、そして将来へ向けた人事賃金制度について労使の本格的な議論に入ります。このような時期に職場で脱退が進めば労働組合は弱体化して、会社にモノを言えぬ組合となり組合員と家族の利益がまもれなくなります。私たちは今こそJR東労組の旗のもとに結集して、全組合員で励まし合い、助け合い、時には厳しくぶつかり合いながらこの難局を乗り越えていこうではありませんか！

国鉄改革から30年間積み上げた「仲間を大切に作る」職場風土を守り抜き、安全・健康・働きがいと社会に貢献するJRバスをつくりだすことを再度呼びかけ、JRバス関東本部の方針とします。

2018年5月30日
東日本旅客鉄道労働組合
JRバス関東本部